

ウインドアンサンブルがはぐくむ チーム医療の絆。

臨床大講堂に響くドラムスティックの
カウント。指揮者の振りにあわせて、管
楽器が一斉に鳴り、演奏が始まりました。

彼らは帝京大学板橋キャンパスのウイン
ドアンサンブル部。医学部、薬学部、医
療技術学部の3学部がそろったこのキャン
パスで、年に数回開催される演奏会を中
心に活動しています。クラリネット、ホ
ルン、チューバ、トロンボーンなどの管

楽器隊と、ドラムやパーカッションのリ
ズム隊、各楽器パートがそれぞれの旋律
を奏でて構成されるウインドアンサンブ
ルは、「1つ楽器がうまくいかないだけで
音のバランスが崩れてしまうため、部員
一人ひとりの存在が重要になります。全
員の息がぴったり合うことで、曲が立ち
上がる。それはメロディーと学生たちの
思いが演奏の中で共鳴する瞬間です。」

部長で臨床検査学科の菊池楓さんは、
パート分けや曲決め、さらに練習の組み
立てまでも学生で行うこの部活のまとめ
役。「私は、みんなで進めよう、を活動
方針にしています。音の聞き分けや演奏
面については経験者にリードしてもらい
ますが、部に必要なことはみんなで考
え、意見をまとめます。何事もみんなの
力を借りて進めることが大切なんで
す」。部員からの信頼も厚い菊池さんは

クラリネットを担当し、演奏中も部員を
引っ張ります。

「部員それぞれの個性が違うのも面白く、
異なる学部で学生間で横のつながりが広
がることで情報交換もできて、勉強の刺
激にもなります」。そう話す副部長で薬学
科の高田彩さんは、学業や実習で忙しい
中でも積極的に部活に参加しています。

顧問の金子希代子先生にも話を伺いま
した。「演奏で生まれる学生同士のつな
がりや、将来の医療現場で必ず役立つも
のと確信しています。現在のチーム医療
の現場では、一人の患者に対し、医師は
もちろん看護師、薬剤師、管理栄養士、
理学療法士など、さまざまな職種のスタ
ッフが病状に応じてチームを組み、治療
やケアにあたります。例えば血液検査の
場合、採血を行う看護師が患者さんのコ
ンディション情報などを入手したら、そ
の人のにかかわるすべてのスタッフで情報
共有することが重要なんです」。他学部
の学生と密なやりとりをできる部活の場
はそういった意味でも貴重な機会になっ
ています。

部員全員で奏でる楽曲は、チームワー
クが生んだ努力の結晶。医療系のキャン
パスだからこそ、この経験が生きてく
る。ここでははぐくまれたチームワーク
が、日本の医療現場を支える日がもうす
ぐそこまで来ています。



feel TEIKYO 
あなたにつながる帝京大学 撮影・菊池良助